

農業者が取組む 農福連携について ～ピーマンの収穫・出荷～

佐久市
友野 宏一



概要等

■ 就農について

- ・平成29年就農

地元(佐久市臼田)で誕生したサンプルーンの農家の減少を耳にして脱サラし研修も受けずに就農

■ 2024年栽培品目

- ・ピーマン
- ・りんご
- ・水稻
- ・その他野菜



ピーマン栽培に至った経緯

- 物価高騰や人材確保の難易度の高まり等環境の変化に対する今後の農業経営の不安から経営品目の変更を行う

① 佐久市と夏の気候が類似している地域の特産品は何か

② 消費量が多い野菜は

※ 上記二点を基にピーマンを選択

- 2022年・・・試験栽培
- 2023年・・・計量作業を福祉事業所に依頼
- 2024年・・・収穫、選果、計量、梱包作業を福祉事業所に依頼

栽培について

■ 2024年実績として

- ・定植本数 約6,700本(36a)
- ・収穫量 約8,000箱/4kg(6月末～10月末)

■ 収穫作業

- ・バイト、シルバー (3h/日 約10名)
- ・中込共同作業センター様 (月～木 午前中)

■ 選果、計量、梱包作業 (休日を除く)

- ・佐久の泉共同作業センター様、陽だまりの家様

農福連携の取組み 佐久の泉共同作業センター(R5～)

- 2023年(令和5年)
 - ・ピーマンの計量作業を依頼
- 2024年(令和6年)
 - ・選果、梱包作業を依頼



農福連携の取組み 中込共同作業センター(R6～)

- 2023年(令和5年)
 - ・9月にお試しノウフクでピーマンの収穫体験の実施
- 2024年(令和6年)
 - ・ピーマンの収穫作業を依頼(週3～4日)



農福連携の取組み 陽だまりの家(R6~)

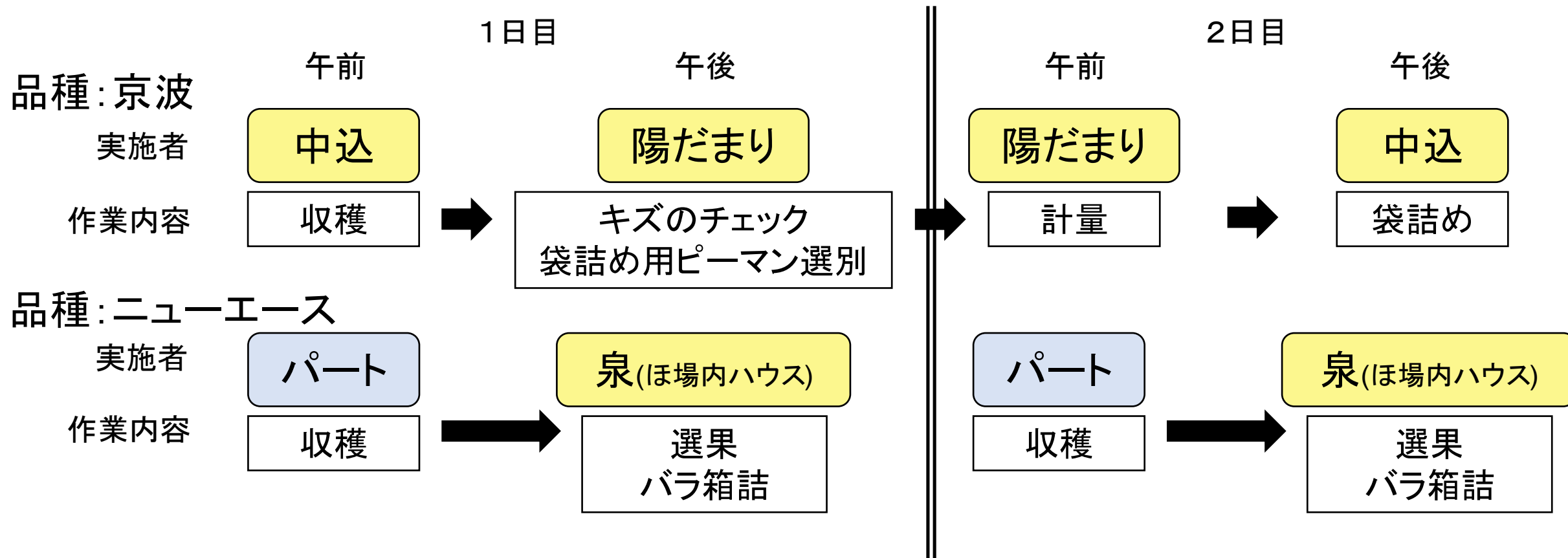
■ 2024年(令和6年)

・収穫と箱詰め作業を依頼

⇒送迎等の問題から箱詰め作業に特化



令和6年9月下旬以降の作業役割分担フロー図



■ 収穫作業について

- ・品種によって収穫作業者を分ける

■ 梱包作業

- ・バラ出荷の他、袋詰め出荷も開始

工賃について

■ 工賃の設定方法

- ・自分の1時間の作業量、一般的な時給から工賃を設定

例えば...

- ・私は1時間で10箱の箱詰めができた。
- ・今の時給は1,000円



1,000円÷10箱＝100円/箱
工賃を100円/箱で設定！

歩合制で支払い

作業開始後も事業所と相談

作業しやすい仕組みづくり

- 作業の指示系統
 - ・私 ➡ 福祉事業所職員 ➡ 福祉事業所利用者
- 農福連携で収穫してもらうのは京波のみ
 - ・収穫の可否を判断しやすい
- コンテナで品種の違いを判断できるよう工夫
 - ・京波はみどりのテープを貼る
- 雨の日の対応は事業所と協議して決定
- 休憩や作業時間、ノルマは定めず事業所で判断
- 袋詰めピーマンの員数管理
 - ・プールの段ボールおよびパックを利用



農業支援センター主催の研修会 (R6年8月)

■ 佐久農業農村支援センター主催の研修会を実施

・福祉事業所の参加

→ 農福連携に興味のある福祉事業所も多い

・生産者の参加

→ 農福連携を含めたピーマンの栽培に興味あり



各事業所の強みを生かす

- 佐久の泉共同作業センター
 - ・主にバラ出荷用のピーマンの選果、箱詰め作業
- 中込共同作業センター
 - ・収穫作業(午前)
 - ・週3日袋詰め作業(午後)
- 陽だまりの家
 - ・バラ出荷用の選果、箱詰め作業
 - ・週3日袋詰め用のピーマンの選別、計量作業

※2024年実績として出荷先からのクレーム0件

福祉事業所へ依頼して良かった点

- ピーマンは収穫調整作業の時間がかかる
 - ・京波の収穫と、箱出荷の75%は福祉事業所が担当。
 - ・福祉事業所に任せることで空いた時間を有効活用できる
- 利用者の生きがいづくり、社会参画が促進される
 - ・利用者が楽しそうに作業していることが一番！



お互いにメリットがあるwin-winの関係

農福連携について

- 私の理念は『地域に貢献できる農家になる』
- 農福連携は利用者が農業分野で活躍することで自信や生きがいをもって社会参画を実現していく
 - ⇒ 自分自身の理念や農福連携の原理原則に沿った形で活用

※ お互いの絆を深める事で今後も続けられるようにしたい

来年以降の取組

■ ピーマンの規模拡大

- ◎ 今年の出荷量のうち75%を福祉事業所が箱詰め
- ◎ 福祉事業所のウエイトは増加傾向
- ◎ 袋詰め作業を新規の事業所に委託することも検討

ご清聴ありがとうございました